



**出光**  
この出張授業は「セーフティドライブ」をテーマに事故のない車社会を目指し、充実したカーライフを送るよう取り組んでいる出光興産の活動の一環です。

## レーシングドライバー 太田哲也さんの「“生きる”をあきらめない」メッセージ KEEP ON RACING!

# どんな体験も 夢へのチャンスに 変えるんだ



レース中に巻き込まれた事故で生死の境をさまよう重傷を負いながらも、手術とリハビリを重ね、不屈の闘志で再びサーキットに立ったレーシングドライバー太田哲也さん。夢を、生きることをあきらめない太田さんの講演は、日本中の人々に感動を与えています。3年前から全国の小学校を訪れ、子どもたちに勇気の輪を広げてきた出張授業『夢を実現するためにチャレンジ』が、いよいよ中学校へ。夢に挑み続ける太田さんの生き方は、中学生たちにどのように届いたのでしょうか。授業を実施した学校の様子を紹介します。



**太田哲也** (おおたつてや)  
1959年11月6日生まれ。自動車評論家・レーシングドライバー。  
4年連続フェラーリでル・マン24時間レースに出場。日本のフェラーリ選手の異名をとる。  
1998年全日本GT選手権で事故に巻き込まれ、瀕死の重傷を負い、再起不能といわれたながら、23回の手術とリハビリを繰り返し、事故から2年半後にサーキットに復帰した。  
復活までを自らがつづけた著作『クラッシュ』(リバース)は、スポーツドキュメントとしては異例のベストセラーになり映画化もされる。現在は自動車評論家として多数の連載をもつ。  
2005年6月に出版した『生き方ナビ』は、学生、教育関係者から絶大な支持を集め、小中高で総合学習の教材としても使われている。  
ライフワークとして若い世代に「チャレンジする素晴らしさ」を伝える社会貢献活動「KEEP ON RACING」(ホームページhttp://www.keep-on-racing.com)も主宰。



**出光は人もクルマも  
安全な社会を目指します。**

出張授業『夢を実現するために チャレンジ』で、講師の太田哲也さんは子どもたちに交通安全の呼びかけをしています。

「交通安全のポイントは『青信号でも渡るな』。クルマを運転しているのは人間です。考えごとをしていたり、眠かったり。青信号であっても突っ込んでくる心配があります。青でも信用しないで、周囲を見渡してから渡りましょう。自分の目で安全確認をすることが大切です。

クルマは友だちであり、人生のパートナー。クルマに乗るといろいろな場所へ行けるようになって、自由が手に入れます。将来、カーライフの楽しみを味わってもらうためにも、交通安全に気をつけてください」

### 全治3年、23回の手術……

授業では初めに太田さんのこれまでの道のりをビデオで紹介。拍手の中、太田さんが手を振りながら登場しました。  
事故から1ヵ月後、全身40%を覆う大やけどをした自分の姿を見た時には、絶望のあまり、ふらふらと病院の屋上へ。しかし、金網は天井まで張り巡らされていて「死ぬことさえも許されぬのか」。そう思うと同時に「病院には辛い気持ちの人がたくさんいるんだ」と、急に周りのことが目にとびこんできました。それまでは、事故の衝撃と傷の痛みで「なんでこんな目に……」と自分のことばかり考えていたのです。

その時、「私たちのために生きて」と励まし続けてくれる家族の辛さにも気づきました。家族の笑顔と「誰かのために生きることを支えに、医師から宣告された『全治3年』という途方もなく長い時間、23回の手術に臨みました。

### 愛するクルマを操りたい



炎上場面を見たのは、事故から一年以上経ってからです。炎に包まれて、それでも立ち上がるようにする姿に

「ゼロからのスタートなんだ!」。新しい人生を与えられた気がしました。  
何かを始めよう! まずは大好きなクルマに乗ろう! エンジンをかけてみると、その音は「お帰りのなさい」と言っているように聞こえました。クルマがあれば、いろいろなところに行けるようになる。ほくの世界が広がるんだ! 毎日練習していると、不可能だと思えていた細かい操作ができるようになっていきます。

かつての仲間たちに背中を押されて、サーキットへ。走りの勘が戻り、運転感覚が戻っていき、と感したところ、恐怖心は消えていきました。しかし、サーキットを走ったことで、先延ばしにしてきたある決断を自分自身に下すことになりました。「プロのレーサーとしては、もう通用しない」  
何をしたらいいか考えました。与えられた人生です。過去と今を比べて、周りと自分を比べてみると、マイナス点を数えている余裕はありません。ほくは様々なことを悩みぬき、人にはできないたくさんあることを体験してきた。これを本に書いて人に伝えたい。どうにか、社会で通用する作家にならなくては、がむしやりに文章を書く勉強をしたのです。失敗しながら、それでも必死に本を書き上げました。



### チャレンジし続けることが 人生を輝かせる

「ぼくは、事故に巻き込まれるという辛い体験も、挑んだことで、かえって断念しなければならぬことがわかった。無駄な体験もしています。しかし、どんな辛い体験や無駄な体験を重ねても、あきらめずにチャレンジし続けることで、人生は輝くのだと信じています。自分の性格に向いている、楽しくてたまらないことに打ち込んでいて、その働きに対して「ありがとう」と言われたときほど手応えを感じることはありません。

「めんどくさい」とか「無理」とかいう言葉を口に出してはいませんか。「夢」に向かう近道は、どんなことでも、やってみること。とりあえずやってみることで、自分が楽しくてたまらない得意なことや、自分を社会に生かせる何かを見つけ出しほしいと思います。人生はKeep on Racing! あきらめないで何かをし続けよう。



**出張授業 学校レポート No.1 兵庫県神戸市 啓明学院中学校 全校生徒 480人**



### 将来を見せる真剣なまなざし

「生きる意味について教えてください」と、手を上げたのは3年生女子。「そうだな、自分を客観的に見て、まず小さな幸せに気づくことから……」。太田さんは丁寧に言葉を選んで答えます。「ギターとアメフト、どちらかにしはばれません」と3年生男子。「目の前にあること、一生懸命やってみようよ。自分に向いているかどうか可能性を探ってみるんだ」。どの質問も、講演をじっくりと聞いたうえで、自分のことに置き換えてぶつけてみた、そんな真剣な思いがこめられています。  
中・高一貫教育で、卒業生全員が継続の関西学院大学への推薦入学を予定している啓明学院中では、日ごろからチャレンジ精神を育てバラエティー豊かな体験プログラムを実施。みんな積極的に参加しているそうです。会場となったチアヘルの温かな光の中で、質問タイムはぐんと白熱しました。



**出張授業 学校レポート No.2 千葉県市原市立菊間中学校 全校生徒 233名**



### 生徒主催で感動の“生き方集会”

誰もが声を張り上げています。「大地賛頌」。菊間で歌い継がれている大切な歌で、この日は太田さんへのお礼として全校生で大合唱。美しくそろった力強い歌声から、感謝の気持ちが伝わってきます。会場の体育館には一人ひとりが自分の手を描いたクロッキー「夢をかなえた手」も飾られ、「めざせ、保母さん」「アニメを製作したい」など将来の夢が書き添えられています。  
司会進行も生徒の受け持ち。「生き方集会」として自分たちで準備を進めてきました。授業中は少し緊張気味だったものの、太田さんが乗ってきたイタリアのスポーツカー・アルファロメオを取り囲んだときには、はじけました。「カッコいい」「最高速度はどのくらい?」と握手を求めたり、質問攻めにした。「クルマ、好きなんだね!」。太田さん笑顔でガッツポーズです。



ほっと安心、もっと活力、きっと満足。出光の約束

出光興産公式ホームページ <http://www.idemitsu.co.jp/>